

多言語自動翻訳掲示板の利活用に関する基礎的 研究

早稲田大学人間科学部人間情報科学科
西村研究室

学籍番号：1J20F037
名前：奥村飛悠

2023 年 11 月 20 日

目次

第 1 章	はじめに	2
1.1	現状	2
1.2	翻訳技術の進歩	3
1.3	既存サービスと先行研究	3
1.4	本研究の概要と目的	4
第 2 章	多言語自動翻訳掲示板について	5
2.1	システムの概要	5
2.2	主な機能と利用フロー	5
2.3	機能詳細と主な画面操作	6
2.4	システム構成	9
2.5	コンポーネント設計	9
2.6	データ設計	9
第 3 章	利活用についての分析	11
	参考文献	12

第 1 章

はじめに

1.1 現状

インターネットの普及やソーシャルメディアの台頭により、オンラインでのコミュニケーションが一般的になっている（大向, 2006）。その中でも、誰でも気軽に参加することのできる掲示板は重要なコミュニケーションの場となっている。日本では、“5ちゃんねる”（サイト名を“2ちゃんねる”から“5ちゃんねる”へ 2017 年 10 月に変更）が広く知られている一方で、米国発の“reddit”は国際的に認知度が高く、日別のアクティブユーザー数は 5700 万人、総投稿数は 130 億投稿を超えている（Reddit Inc, 2023）。これらの大規模な掲示板は情報の集積場所として、またユーザー間の活発な議論の場として重要な役割を果たしている。

しかしながら、掲示板は誰もが利用できるコミュニケーションの場であるにも関わらず、現状ではそのコミュニケーションは主に同一言語間で行われている。具体的には、“5ちゃんねる”では主に日本語、“reddit”では主に英語が使用されている。そのため、異なる言語を使用するユーザーは、翻訳ツールや外部の翻訳サービスを頼るか、専用のスレッドや言語コミュニティを探すことが一般的となっている。しかし、これらの方法にはデメリットが存在する。例えば、翻訳ツールを利用すると時間と手間がかかるため、掲示板の持つ即時性や気軽さというメリットを十分に享受することが難しくなる。

同一言語間でのコミュニケーションが主流となっている背後には複数の要因が考えられるが、その一つとして翻訳技術の品質が十分でなかったことが考えられる。2004 年には「コミュニケーションツールとして使用する場合に十分な品質を持っているとはいえない」（船越ほか, 2004）との指摘があり、さらに 2009 年にも「近年、翻訳技術は急速に進展しているが、高精度な翻訳を行うことは困難である。コミュニケーションにおいて、不適切な翻訳箇所を含む文章は話者間の相互理解を困難にし、円滑のコミュ

ニケーションの妨げとなる」(宮部ほか, 2009)とも指摘されている。また、多言語間でのコミュニケーションにおいては、翻訳の品質が極めて大きな影響力を持つことも確認されている(船越ほか, 2004)。このように、コミュニケーションに大きな影響を与える翻訳技術の品質が十分でなかったため、ユーザーは翻訳技術を利用して会話の中心となっている言語以外を使用してまで会話を試みなかったのではないだろうか。

1.2 翻訳技術の進歩

しかしながら、翻訳サービスの精度は日々向上している。これについて、「近年、Google 翻訳や DeepL、そしてページ全体翻訳機能の進化が著しい」(村本, 2022)との報告があり、その背景には機械学習の進歩が影響を与えている。「Google 英日翻訳が NMT (ニューラル機械翻訳) を採用したことで、目標言語の流暢さが格段に向上した」(影浦, 2017)との報告がある。同様に NMT を採用している DeepL は、2017 年にサービスを開始し、その高品質な翻訳サービスが評価されている(亀田, 2022)。さらに「2020 年と 2021 年には、文章の意味をより正確に伝えられ、業界特有の専門用語もうまく処理できる新たなモデルを発表」(DeepL, 2023)している。これらのことから、翻訳サービスの精度は日々向上されていることが分かる。

また、多くの翻訳サービスが開発者向けに API を提供している。その代表例としては、Google Cloud の Translation AI (Google Cloud, 2023) や DeepL API (DeepL, 2023) がある。これらのサービスを開発者が利用するための便利なライブラリも存在している。具体的には、Google Translate API (現在の Translation AI) を利用するための Python のライブラリである googletrans (PyPI, 2023a) や deepl (PyPI, 2023b) がある。このような API やライブラリの存在により、開発者は翻訳機能を自身のサービスに容易に組み込むことが可能となっている。

1.3 既存サービスと先行研究

過去には、「enjoy Korea」という日本語と韓国語の翻訳機能を持つ掲示板サービスが存在していたが、利用率の低下を理由に 2009 年 6 月 8 日にサービスを終了している(野津, 2009)。また、小川ら(2009)は日本語とウイグル語間の翻訳掲示板システムを開発している。しかし、彼らの研究は主にシステムの開発に焦点を当てており、システムを使用するユーザーのデータ収集やその分析までには至っていない。

一方、藤井ら(2005)はアノテーションや折り返し翻訳に着目し、中国語、韓国語、日本語間の翻訳 BBS である「AnnoChat」を開発した。翻訳の精度がコミュニケーションの理解度に影響を与える可能性を示しているが、ユーザー同士の具体的なコミュニ

ケーションの内容までは調査していない。また、吉野ら（2006）はユーザインタフェースのカスタマイズ性に焦点を当てた研究を行い、“CustomChat”というシステムを開発したが、これも具体的なチャットの内容などについては触れられていない。

これらの事例や研究を見ると、多言語間のコミュニケーションを可能にする翻訳掲示板に関する研究やサービスは確かに存在している。しかし、それらは主にシステムの開発や翻訳の精度と理解度の関係性、ユーザインタフェースの改良に焦点を当てており、異なる言語を使用するユーザーがシステムをどのように使うのか、どのようなコミュニケーションが起こるのかという点については、まだ十分に研究されていないと言える。

1.4 本研究の概要と目的

これらの背景から、本研究では、掲示板のグローバル化を進めるため、近年の高精度な翻訳サービスを利用した多言語自動翻訳掲示板の開発とその利活用について基礎的な研究を行う。我々が提案する多言語自動翻訳掲示板では、ユーザーは表示言語を選択することにより、選択した言語で掲示板の投稿を閲覧することを可能にする機能をつける。これにより、異なる言語を使用するユーザー間でも、自由なコミュニケーションが促進され、掲示板の持つ即時性や気軽さというメリットを維持することができる。

そして、この掲示板をインターネット上に公開し、使用者から得られるデータを収集する。その後、得られたデータを分析し、多言語自動翻訳掲示板がユーザーのコミュニケーションにどのような影響を与えるのか、多言語自動翻訳掲示板上で異なる言語を使用するユーザー同士がどのようなコミュニケーションをするのかを評価する。具体的には、ユーザー間のコミュニケーション量や内容、トピックの多様性、言語間のコミュニケーション方法などを指標として用いる。

我々の研究は、新たな掲示板の形を示すだけでなく、機械翻訳技術とその実用化の進歩に貢献することを期待している。本研究の結果が、ユーザーが自由に多言語コミュニケーションを享受できるインターネットの環境整備に向けた一歩となることを願っている。

第2章

多言語自動翻訳掲示板について

2.1 システムの概要

本研究では、多言語自動翻訳掲示板である「The Channel」という Web アプリケーションを開発した。このシステムは、世界中のユーザーが自分の言語で投稿することができる。そして、その投稿はユーザーが選択した言語に翻訳されて表示されることで、ユーザーは好きな言語でコンテンツを読むことができる。

システムの中核は、機械翻訳技術が担っている。これにより、ユーザーが投稿したテキストはリアルタイムで他の言語に翻訳され、多様なユーザーがアクセスできるようになる。例えば、日本語で書かれた投稿は、英語、スペイン語、中国語などに瞬時に翻訳され、異なる言語のユーザー間の交流を可能にする。

システムは、掲示板として必要最低限の機能を備えている。ユーザーは簡単にスレッドを作成することや、自分の母国語でコメントを投稿することができる。

また、セキュリティを考慮し、ログイン機能などはつけず、ユーザーの個人情報を Web アプリケーションでは取り扱わないようにしている。

2.2 主な機能と利用フロー

掲示板は以下の機能を持つ。

1. スレッド作成
スレッドの作成を行う。
2. コメント投稿
スレッドに対して、コメントを投稿する。
3. 閲覧

スレッドに投稿されたコメントの閲覧。

4. 言語選択

閲覧する言語を選択する。

以下にシステム利用フローを示す。

図 2.1: システム利用フロー

1. ユーザーはスレッド一覧やスレッドに投稿されたコメントを閲覧することができる。
2. 閲覧しているスレッドに対してコメントを投稿することができる。
3. 自由にスレッドを作成することができる。
4. ユーザーはいつでも言語を選択することができる。

2.3 機能詳細と主な画面操作

主な画面のフローを以下に示す。

① ホームページ画面

②スレッド画面

③スレッド作成画面

④ヘッダ表示

⑤サイドメニュー表示

⑥言語選択表示

①ホームページ画面

表示されているスレッドをクリックすると、スレッド画面へと遷移する。

④ヘッダ表示

The Channel との表示部分をクリックするとホームページ画面へと遷移する。左部にあるメニューボタンをクリックすると⑤サイドメニューが表示される。右部にある言語選択部分をクリックすると⑥言語選択が表示される。

⑤サイドメニュー表示

ホームページボタンをクリックするとホームページ画面へ、スレッド作成ボタンをクリックするとスレッド作成画面へと遷移する。サイドメニュー以外の部分をクリックするとサイドメニューは閉じられる。

⑥言語選択表示

言語を選択するとその言語に翻訳された画面へと遷移する。言語選択部分以外をクリックすると閉じられる。

2.4 システム構成

本システムでは、ユーザーが Web ブラウザを通じて掲示板にアクセスする構成を採用している。掲示板のサーバーには、さくら VPS **注釈的な引用的な**を使用した。（**性能その他諸々を書く**）

現代的なウェブアプリケーション開発に適した技術スタックを用いて、柔軟かつ効率的なシステム構成を実現した。フロントエンドの開発には、TypeScript、React、Next.js、Material UI、Sass を組み合わせて使用した。これらの技術選択により、ユーザーインターフェイスの高い拡張性と保守性を確保し、動的なコンテンツの迅速なレンダリングを実現している。バックエンドでは、Python と FastAPI を採用し、高速な開発と性能を両立させた。データ管理には、信頼性と拡張性に優れた MySQL を使用した。また、開発プロセスの効率化のために Docker を導入した。ソースコードの管理には Git と GitHub を使用した。

2.5 コンポーネント設計

2.6 データ設計

Threads テーブル

スレッドの情報を格納するテーブルである。

カラム名	データ型	説明
ThreadID	INT PRIMARY KEY AUTO_INCREMENT	スレッドの ID
Title	VARCHAR(255)	スレッドのタイトル
CreatedAt	TIMESTAMP	作成日時
UpdatedAt	TIMESTAMP	更新日時
UserName	VARCHAR(255)	ユーザー名
Content	LONGTEXT	内容
Language	VARCHAR(8)	言語

Comments テーブル

スレッドに投稿されたコメントを格納するテーブルである。

カラム名	データ型	説明
CommentID	INT PRIMARY KEY AUTO_INCREMENT	コメント ID
ThreadID	INT	スレッド ID
UserName	VARCHAR(255)	ユーザー名
Content	TEXT	コメント内容
CreatedAt	TIMESTAMP	作成日時
Language	VARCHAR(8)	言語

第 3 章

利活用についての分析

参考文献

- [1] 大向一輝 (2006). SNS の現在と展望-コミュニケーションツールから情報流通の基盤へ-. 情報処理, 47(9): 993-1000.
- [2] 小川泰弘, 福田ムフタル, 外山勝彦 (2009). 日本語ーウイグル語翻訳掲示板システム. 言語処理学会 第 15 回年次大会発表論文集, 15: 212-215.
- [3] 影浦峽 (2017). 改めて、翻訳とは何か：Google NMT が使える時代に. 言語処理学会 第 23 回年次大会発表論文集, 23: 931-934.
- [4] 亀田倫史 (2022). 機械学習とバイオテクノロジー. 生物工学会誌, 100(11): 588.
- [5] 中澤敏明 (2017). 機械翻訳の新しいパラダイム：ニューラル機械翻訳の原理. 情報管理, 60(5): 299-306.
- [6] 野津 誠 (2009). 日韓翻訳掲示板「enjoy Korea」終了へ、理由は利用率の低下. 株式会社インプレス, <https://internet.watch.impress.co.jp/cda/news/2009/02/12/22405.html#:~:text=会員数は非公開,にした>と説明する。(参照日 2023.07.17)
- [7] 藤井薫和, 重信智宏, 吉野孝 (2005). 異文化間コミュニケーションのための機械翻訳を用いたチャットシステム AnnoChat の開発と適用. 情報科学技術フォーラム一般講演論文集, 4(3): 437-438.
- [8] 船越要, 藤代祥之, 野村早恵子, 石田料亨 (2004). 機械翻訳を用いた協調作業支援ツールへの要求条件ー日中韓馬異文化コラボレーション実験からの知見. 情報処理学会論文誌, 45(1): 112-120.
- [9] 宮部真衣, 吉野孝 (2009). 折り返し翻訳を用いた翻訳リペアのチャットコミュニケーションへの影響.
- [10] 村本麻衣 (2022). 自動翻訳機能からの自立：学習者による気づきを通じて. ドイツ語教育 = Deutschunterricht in Japan / 日本独文学会ドイツ語教育部会 編, 26: 119-125.
- [11] 吉野孝, 藤井薫和, 重信智宏 (2006). 異文化間コミュニケーションのためのカスタマイズ可能なユーザインタフェースを持つチャットシステム CustomChat の開発. 情報処理学会研究報告 = IPSJ SIG technical reports, (60): 13-18.
- [12] DeepL (2023). DeepL. <https://jobs.deepl.com/> (参照日 2023.07.08)

- [13] Google Cloud (2023). Translation AI. <https://cloud.google.com/translate?hl=ja> (参照日 2023.07.17)
- [14] Loki Technology, Inc (2023). 5ちゃんねる. <https://5ch.net/> (参照日 2023.07.17)
- [15] PyPI (2023a) . googletrans 3.0.0. <https://pypi.org/project/googletrans/> (参照日 2023.07.17)
- [16] PyPI (2023b) . deepl 1.15.0. <https://pypi.org/project/deepl/> (参照日 2023.07.17)
- [17] Reddit Inc (2023). reddit. <https://www.redditinc.com/> (参照日 2023.07.08)